

令和 2 年 5 月 22 日現在

機関番号：12611

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K17647

研究課題名(和文)短期国際研修の長期的教育効果の解明とその教育的応用

研究課題名(英文) Longitudinal impacts of short-term international courses and application to educational practices

研究代表者

櫻井 勇介 (SAKURAI, Yusuke)

お茶の水女子大学・基幹研究院・講師

研究者番号：60771219

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：(1) 25名の学生に対する2回のインタビューについて分析を用い、学生自身の研修成果の認識を総合的に探索し、「学術的専門知」、「汎用的スキル」、「国際的視野」、「人間的成長」の4領域に体系化して整理した。

(2) 学生の研修成果の中でも授業で得られた学術的知識に注目し、その効果が持続する学習環境条件やそのメカニズムについて整理した。個人が研修履修後の在学中の学びの成果とどう関わりを持ち、その経験をどう考えているのか、なぜそのように関与するのか、そして、しないのかを明らかにした。学生の強い意志はもちろん重要だが、それと同様に、大学の教育体制を次に続くようにデザインすることの重要性が認識された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで短期間の国際研修の成果に関する研究では、主に学生の異文化感受性や言語運用力の開発に注目した検討がなされてきた。本研究はまず、これらの領域にとらわれずより広く学習成果を把握しようとした。限られた国際的な研究成果を鑑みると、本研究は先行研究の再現性を確認することになり、日本での国際研修の成果も国際的な文脈での研究成果を再現しうるものであることが確認できた。一方、学生の学習成果が長期的にどう発展していくのかどうかについてはほとんど研究がなく、この本研究の2つ目の観点は重要な意義を持つ。

研究成果の概要(英文)：(1) The study interviewed 25 undergraduate students. The analysis was carried out to explore students' learning outcomes of short-term international courses using an interpretative phenomenological analysis approach. The study summarised the students' learning outcomes into the four major themes: "discipline-specific matter", "generic skill", "global awareness", and "personal growth".

(2) Among the learning outcomes, the study examined how students' subject-specific knowledge which was attained in their short-term international courses developed in their daily academic studies on campus and at their personal sphere. The study also probed factors contributing to their engagement of, or disengagement from their continuing studies. The results suggested that students' solid motivation was mandatory for their continuous learning, and that the university curriculum structure also limited their engagement in further developing subject-specific knowledge.

研究分野：国際教育

キーワード：国際教育 教育の質保証 教育開発 留学 学習成果 教育工学 教育評価 縦断的調査

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 短期国際研修の動向

近年、人間の異文化間の移動と交流が進み、国際化社会に貢献し地球規模の様々な課題解決に立ち向かう人材の育成が国内外で求められている。特に大学はその要請に応える人材育成を念頭に、様々な国際学習の機会を提供し、その一つとして2~4週間程度の短期国際研修が注目されている。その教育効果として、「異文化理解」「外国語学習への理解」「自己理解」「協働方策の理解」「社会との係わりの意識」等が報告されている(カッティング 2015)。しかし、将来国際的な場で活躍する人材育成に確実に繋げるために、これらの成果が学生の履修後の学業や発達にどう長期的に関与をしているのか、そして更なる発展を導くための効果的な仕掛けの方策も明らかにされていない。

(2) 国際研修の長期的教育効果の複雑性

短期国際研修の教育的効果の検証はまだ端緒についたばかりで、その効果に懐疑的な声もないわけではない(Tarrant & Lyons 2012)。学生の外国語運用力や異文化理解の発達に注目した研究蓄積はある程度あるものの、大学教育という文脈の中で、短期国際研修の経験がなぜ、そしてどのように長期的な教育効果を持ち、個々の学生のそれまでの歩みや、大学の学業の成果とどう関連し、発展していくのか、その条件やメカニズムは全くわかっていない。学生の変容は、学生個人が新たな学業経験を取り入れつつ、それまでに形成した学業での経験のあり方と交渉しながら新たな様式と意味づけを自ら再構築していく過程である(Mezirow 1994)。そのため、一人ひとり複雑な変容過程を踏むことが指摘されている(Taylor 2008)。しかし、従来研究ではそのパターンや傾向は十分解明されていない。

2. 研究の目的

本研究は国際研修履修生の(1)学習成果の整理を経て、(2)長期的に有意義な経験の要素とその持続・発展過程および学業との連関の様子を明らかにする。そのために、履修生に対する参与観察、彼らの学業経験の語りの聞き取りデータを縦断的に収集する。本研究の知見は、長期的教育効果の高い短期国際研修の開発に応用され、さらなる教育効果の発展に資する。

3. 研究の方法

研究デザインの全体像を図1に示した。

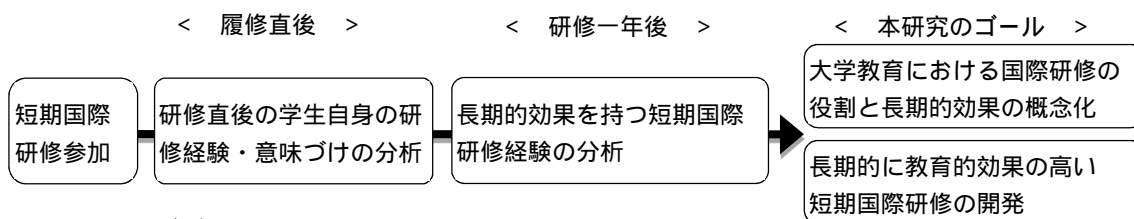


図1 研究のデザインの全体像

(1) 研究対象者

夏季・冬期休暇中に開講される内容が異なる複数の短期国際研修にてデータ収集を実施した。2-4週間程度の短期国際研修授業を履修した学生に協力を依頼し、同意した学生計25名に2回の縦断的調査を実施した。学生への調査協力の打診はそれぞれの研修を運営した教員の協力を得て行った。

(2) 半構造化インタビュー：1回目

予備調査を元に改訂した質問項目で同一の対象者に2回の半構造化インタビューを実施した。1回目は研修で得た成果を自身の研修経験と関連付けながら自由に語ってもらった(逐語録を作成)。この際、なるべくこちらから特定の成果に注目しすぎないように配慮した。

(3) 半構造化インタビュー：2回目

2回目は、一年前の研修経験を振り返りつつ、自分が履修した国際研修後、どのような学びをしてきたか、その様子について語ってもらった。なぜそのような学びを選んだのか、そこにどんな意味があるのかを掘り下げていく。この際に1回目に語った内容を念頭に、その変容の有無にも注目した。当初の想定どおり、ほとんどの学生が1回目の聞き取り調査で語った内容を具体的に記憶していなかったため、2回目の聞き取り調査までにどんな経験への意識が継続していたのかより明確に言抽出することができた。聞き取り調査の最後には1回目に語った内容の要約を手がかりとしながら、無理に語らせないように特に留意する。

(4) 長期的に効果を持つ要素の分析

研修での学習成果を整理するために、一回目の聞き取り調査で作成した逐語録をもとに学生が語る学習成果にコードを付した。また、2つ目の研究課題である長期的な発達過程を明らかにするために、研修直後と、1年後に実施したインタビューにおいて同一の対象者の学習成果がどのように内容が変容していたか同定した。特に、研修で得た学問知識の習得や蓄積が、その後の学業経験の中でどのように変容したのかのみ注目した。

4. 研究成果

今回の研究では、国際研修履修生の語りから関連する発言を抽出し、整理することで、短期国際研修の成果を1)「自己成長」、2)「汎用スキル」、3)「国際的な視野」、4)「専門分野の知識」の4つの主要素にまとめるに至った(図2参照)。この中で全ての学生が頻繁に言及していたのは「自己成長」であり、一方で、「専門分野の知識」については、比較的に頻度は少なかったものの3/4の学生が言及していた。

研修1年後に再度同じ学生に行った聞き取り調査を踏まえ、特に研修で得られた学業知識がその後どのように発展したか、またはしなかったのか分析をしたところ、学生個人の強い興味に元づいた学習動機、大学の教育体制、社会とのつ

ながりといった要因が、彼らの研修で得られた学問的知識の発達を左右する主要因であるという結論に至った。残念ながら、半数近くの学生が、国際研修で得た学問的知識をその後の学業で発展させたりする経験をしていなかったのは、特筆に値する。これらの事例が多く見られたのは、もちろん本人のその分野への興味の種類によるところが大きいですが、教育体制上の制限とも一定の関連性が見られた。調査協力者の学生は所属する教養教育課程から上級学年に進むにあたり、自らの専門分野を絞っていかなければならない。そのために履修すべき授業の選択肢も自由度が下がり、ある程度の制限を受けることになる。その結果、新しく得た学問的知識をさらに深める機会を得ることができなかったと認識していた学生がいた。単に、日々の授業や生活に追われ、新たな興味関心を深める機会を自ら作ることができない学生も多かった。一方で、学外の学生団体や渡航先で出会った学生と学んだことをさらに発展させている学生も数名いた。学外の学生団体に所属したり、諸活動に参加することで、研修で学んだ知識を深めたり広めたりする機会を得ていたようである。また、現地で出会った国外の学生らとオンラインで交流を続けたり、再び訪れたりして情報を交換する中で、現地で得た知識を折に触れて思い出したり、気軽に情報交換をしたりしている機会も一部の学生は作り出していた。

これらの研究成果は学会誌論文、学会口頭発表、書籍の形で公開することができた。また、この成果で得られた知見を踏まえ、在籍していた機関の短期国際研修のマネジメントや運営業務に携わり、一連のプログラムの教育的応用へとつなげることができた。これらの成果は学内シンポジウムで共有することができた。

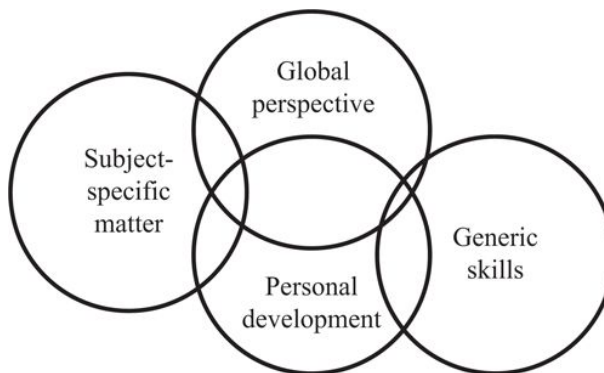


図2 短期国際研修授業による学習成果の概観モデル

Copyright © 2018, Yusuke Sakurai

<https://doi.org/10.1108/JRIT-10-2017-0026> より

<引用文献>

- カッティング美紀. (2015). 短期留学プログラムにおける「意義のある学習」の実践: 留学におけるアウトカムの体系化と学生志向の教育デザインへの挑戦. 『異文化間教育』(41), 111-126.
- Cao, L., & Braun, E. (2014). Addressing Ecological Validity in Modeling and Measuring Competencies in Higher Education. *KoKoHs Working Papers No. 6*, 11.
- Mezirow, J. (1994). Understanding transformation theory. *Adult Education Quarterly*, 44(4), 222-232.
- Taylor, EW. (2008). Transformative Learning Theory. *New Directions for Adult and Continuing Education*, 119, 5-15.
- Tarrant, M., & Lyons, K. (2012). The effect of short-term educational travel programs on environmental citizenship. *Environmental Education Research*, 18(3), 403-416.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Sakurai Yusuke	4. 巻 Vol. 12 No. 3
2. 論文標題 Students' perceptions of the impacts of short-term international courses	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Research in Innovative Teaching & Learning	6. 最初と最後の頁 250-267
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1108/JRIT-10-2017-0026	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Yusuke Sakurai, Kirsi Pyhalto	4. 巻 34
2. 論文標題 Understanding Students' Academic Engagement in Learning Amid Globalising Universities	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Perspectives on Education and Society	6. 最初と最後の頁 31-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1108/S1479-367920180000034003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Yusuke Sakurai
2. 発表標題 The long-term impacts of short-term international courses on students' perceptions of their personal growth
3. 学会等名 World Education Research Association Focal Meeting（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sakurai, Yusuke
2. 発表標題 Learning outcomes of short-term study abroad courses and longitudinal impacts on students: Case study
3. 学会等名 World Education Research Association Focal Meeting（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 櫻井勇介
2. 発表標題 短期海外研修授業の成果と履修者の学びへの長期的影響：再現性検証とケーススタディー
3. 学会等名 日本教育学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>Shining a light on innovative teaching practice http://www.gfd.c.u-tokyo.ac.jp/event/20180719-00001308.html 教養科目の超短期国際研修授業のインパクトを包括的に整理：言語文化資質のみならず自己成長と専門知識の涵養に有効 https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/articles/z0508_00092.html 出版論文の学内レポジトリ保存版プレプリント「Understanding Students' Academic Engagement in Learning amid Globalising Universities利用続」 http://hdl.handle.net/2261/00074352 研究報告書の学内レポジトリ保存版ワーキングペーパー「Engagement in Continuing Knowledge Development: One Year After Short-term International Courses」 http://hdl.handle.net/10083/00063649 研究業績一覧 https://sites.google.com/site/ysacademicportfolio/</p>
--

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考